
ご飯対ライス

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ご飯対ライス

【Nコード】

N1961E

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

ごはんライス先生200本記念小説。

「すみません、ラーメンください」

「はい、中華そばですね」

俺は店員の一言に少し引かなかった。だが、一応もう一回言い直す。

「じゃあラーメン普通をお願いします」

「はい、中華そばですね」

「……あの」

俺は気になつて店員を呼び止めた。店員は営業スマイルで「なんでしょう」と何の悪びれた様子も無い。

何で呼び止められたかもわかってないんだコイツは。ちくしょう。

「俺ラーメンで言ってるのに、どうして言い直すんですか」

「メニューの名前が中華そばになっているからです。後でそれで文句を言うお客さんがいらっしやるので、それでこのようにしています」

「はあ……まあそういうことなら仕方ないですね」

店の事情を知った俺は、まあそういうことなら、と諦めてそれ以上ウダウダぬかすのをやめた。

とりあえず、ラーメン……もとい中華そば一つだけでは物足りないので、他にも注文することにした。

「あと、餃子もください」

「餃子ですね。当店では国産のものを使用していますので、」
「ご安心ください」

「はあ……じゃあ、あとご飯もください」

「はい、ライスですね」

うん？ また俺は店員の言葉に引かかって、もう一度注文を頼んだ。

「そうですね。」
「ご飯です」

「わかりました、ライスですね、以上でよろしいですか？」

「ちょ、ちょっとすいません。ちょっとすいません」

俺は我慢出来ずに呼び止めた。店員は、また白々しい笑顔で「なんですか？」と答えた。苛立つてるような声だった。

「どうして僕の言うことに一々反目するようになつて言つんですか、いい加減にしてくださいよ」

「そういわれなくても、当店ではご飯をライスと呼んでいきますので」

「いや、事情はわかりますけど、そんな露骨に言わなくても良いじゃないですか。なんでラーメンが中華そばで、ご飯がライスなんですか！」

「あら、そうは言われますけど、お客さん」

「なんですか？」

口に手をあててわざとらしく言う店員を腹立たしく思いながら、俺は聞き返した。

「お客さんだって、さっきはラーメンだったのに、今はご飯……でしたよね？」

「……」

俺は恥ずかしくなって、店の机をひっくり返して、扉をぶち壊しながら外に出た。

ついでに、手に持っていた爆弾で店の看板を爆破して粉々にすると、脇目も振らずに遠く、遠くへと走っていった。

もうあの店にはいけない、仕方ないから別の店を探そうと、俺は顔を真っ赤にしながら走り続けた。

東京から走ってどれくらい経ったか、見覚えの無い建物ばかり経つ、片田舎のとても古びたラーメン屋に俺は入った。

今度は、ちゃんとラーメンがラーメンという名で売られていた。でも残念なことにライスは、売っていなかった。

今度は注文を聞かれる前に店ごと爆破した。だが、逃げるときに

躓いて俺も巻き込まれて死んだ。

(後書き)

ごはんライス先生ごめんなさい。記念品ということを書いたら、本当になんとなく書いたような出来になってしまった……。ちよっと実話で感じたことが中に混ざっています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1961e/>

ご飯対ライス

2010年10月17日07時25分発行